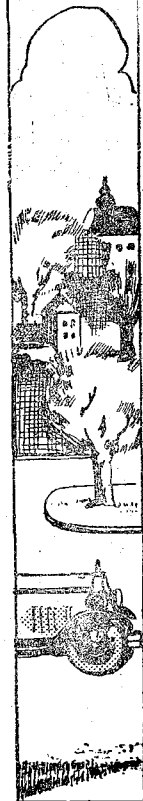


# 説苑



## 土木會議を覗く

淺香生

土木會議は一月十六、十七日の兩日に互り内務省第一會議室に開催せられた。

第一日は午前十時二十五分開會。木戸内相より左の如き挨拶があつた。

是より開會致します。會議の始めに當りまして一言御挨拶申上ます。各位には新春早々にして公私共御多忙中にも拘らず多數御參集戴きまして厚く御禮申上ます。不肖私今回内務大臣の重職に就任致すことになりましたに就ては今後各位の御指導と御協力を仰ぐべきこと多々あ

ると存じますが何分宜しく御願ひ致します。

凡そ産業經濟の進展を計り國民生活の安全を期するが爲には、土木施設の整備充實に俟たねばならぬもの極めて大なることは今更申上ぐるまでもない處であります。

特に支那事變下長期建設の段階に當り、生産力の擴充進展を緊要とする現狀に於ては之が根基たる土木諸施設の完備に付その要求一段と切實なるものがあります。従つて内務省に於きましても既に過去數回に互る土木會議の決議に基き銳意之が遂行完成に努めて參つたのであり

ますが、もとより現下の情勢に照し到底満足し得ざることは明らかであります。依てその要求に適合して遺憾なき様之が調査研究に付ても亦不斷の努力を拂つて居る次第であります。

幸ひにして今回河川に於ては利根川増補計畫、淀川修補計畫、道路に於ては關門隧道計畫、更に港灣に於ては新潟、荻田、名古屋各港の修築計畫に付大體の成案を得まして、その一部に付ては不取敢之が豫算化の手續も進みつゝある状態でありますから、こゝに本會議に提案お諮り致す次第であります。

何卒當局の意のある處を諒とせられ、慎重御審議の上適當なる御決定あらんことを切望する次第であります。

◇

次で澤幹事から其の後の議員の異動報告あり、引續き河川部會の議事に入り、同幹事から左の如き諮問を朗讀した。

諮問河第七號

説苑

土木會議

昭和十年及昭和十三年ノ水害ニ鑑ミ昭和八年本會議ニ於テ決議シタル第三次治水計畫ニ對シ左記ノ通追加シ之カ施行ヲ期スルノ要アリ其ノ會ノ意見ヲ諮フ

昭和十四年一月十六日

内務大臣候爵 木戸 幸一

記

直轄河川改修計畫

利根川増補

淀川修補

之に對し挾間土木局長は、左の如き説明を爲した。

直轄河川改修工事の施行に付きましては、本會議に於て昭和八年以降數次の御決議に基きまして鋭意努力致して居りますが、昭和十年以來の水害に鑑み今回利根川増補及淀川修補の追加を提案せられました次第であります。提案の内容に關し私から一應大體の御説明を申上ります。

利根川増補に付て

利根川は其の流域群馬、長野、埼玉、東京、茨城、千葉の二府六縣に亙り、流域面積一萬五千七百六十二平方秆（千二十二方里）灌漑面積十七萬九千七百町歩、水害面積二十五萬五千町歩を算する大河川であります。明治三十三年高水防禦を目的とする河川改修工事を起し、更に明治四十年には第二期工事を次で同四十三年には第三期工事（江戸川、庄内古川を含む）を起せられたのであります。

以上の工事として利根川本川は、上流群馬縣利根郡芝根村以下千葉縣海上郡銚子町に至り、派川江戸川は關宿町以下行徳町に至る總延長合計二百六十四秆（約五十一里）に亙つて改修工事を施行し、昭和五年に至り竣工を告げたのであります。此の工費六千三百四十萬三千圓、又支川渡良瀬川は工費千四百十萬圓を以て明治四十三年に起工し大正十五年に至り竣工したのであります。以上を合せ此の間の工期實に三十一ヶ年、其の工費總額合計

七千四百八十萬三千餘圓を要したのであります。又起工以來二十有三ヶ年を経たる大正十二年に至り特殊工事を除き大體工事の完了を見ましたので、其の竣工部分の堤防及護岸等は利害關係敷府縣に渉るものなる爲、内務大臣が直轄維持修繕を行ひ以て現今に至つて居るのであります。

上述する如く本工事は、三十餘年の長期を要したる爲年々の出水或は關東震災に、將又國庫財政の都合に依り豫算の節減繰延等に遭遇し幾多の困難を経て漸く完成を告ぐるに至りまして、沿岸四百萬民衆は長年の水禍より免れ改修工事の惠澤に浴して居りました所、適々昭和十年九月群馬縣に襲來せる豪雨は利根川本川筋に異常の出水となり、栗橋地先に於て計畫洪水位を突破すること一米六六に達し、以下全川に亙り隨所に堤防の法崩護岸の破壊を來す等、刻々破堤の危険に瀕しましたので、官民一致必死の水防に當り辛うじて破堤に因る氾濫の慘禍より免れ得たのであります。支川小貝川下流は利根川本

川の逆流を蒙り遂に破堤し、二町二十一ヶ村に互り一萬餘町歩（戸數一、三五〇〇）は水深一米乃至四米に達する浸水三十餘日に及ぶの慘狀を呈したのであります。從て小貝川合流點以下の利根川本川筋に於ける危険箇所は破堤の厄を免れた次第であります。

元來利根川改修工事は最大洪水量五千五百七十立方メートル（二千萬個）を防禦する計畫を以て工事を施行せられたのであります。前に述べたる昭和十年九月の洪水は之を水位並流量より觀るに、大體一萬立方メートル（三十六萬個）

の出水と想定致され隨所破堤に瀕せるも亦止むを得なかつたのであります。斯る薄弱なる施設は根本的に更改するの喫緊なるを認め、水害直後内務省に利根川専門委員會を設け、慎重審議之が検討を加へました結果、數案の答申を得た次第であります。之を實施するには尙實地調査を要する點がありますので、其の調査費二萬四千圓を計上し、昭和十二年度より調査を實施致しました。又利根渡良瀬江戸川を通じ掘き難き弱所がありますので、

其の措置として利根川緊急増補費二百九十餘萬圓を計上し、昭和十二年度より實施し現に施行中であります。

繼て利根川及其の支川に於ける出水狀況は、昭和十年九月の大出水がありました。以來四ヶ年に三度計畫洪水位を突破したのであります。特に昨年七月に於ては本川筋の高水位長期に互りたる爲、堤内平地部の降雨は流出口を閉塞せられ、爲に湛水千數日乃至二十餘日に及び、殊に利根川本川の影響を受け、霞ヶ浦沿岸は湛水數日に及び、農作物の被害激甚を極めたるのみならず、利根川堤裏に浸潤して堤脚滑落の危険を隨所に生じたのであります。

茲に鑑み内務省に於ては、曩の利根川治水専門委員會の答申を根幹とし、鋭意實地調査の進捗を圖りたる結果、根本計畫樹立の資料を得ましたので、御手許に差上げてあります改修計畫要項の通り、計畫洪水量一萬立方メートル（三十六萬個）に更改し、之を快疏せしむるため洪水量の分派、新放水路の開鑿、堤防の擴張、其他洪水調節池の

整備各支川の補強特殊工作物の改造等を計畫致した次第であります。此の工事費總額八千六百十萬圓となりますが、其の第一期と致しまして工費四千八百三十萬圓を以て利根川上下流及新放水路、江戸川、利根運河渡良瀨洪水調節池等の一部を施行せんとするのであります。

### 淀川修補に付て

淀川改修工事は明治八年に起工し、京都市伏見區以下大阪府下守口町に至る三十料間に於ける航路改良の目的を以て施行せられ、更に明治二十九年より沿岸の洪水を防禦するため、伏見以下海に至る區間に高水工事を施行せられ、繼續十五ヶ年工費千九萬四千圓を以て明治四十三年完成を告げたのであります。

然るに大正六年十月、淀川右岸高槻町大塚に於て破堤し、大被害を來しましたので、直に同川堤防の増補工事に着手し、繼續十六ヶ年工費千四百五十一萬七千八百五十一圓を以て、昭和八年に完成致したのであります。

又工事完成部分に於ける特殊工作物（洗堰、閘門、起

伏堤等）は、洪水の調節と舟運に重大關係がありますので、明治四十三年以降之等工作物は、大臣の直轄維持とし更に昭和六年以降は伏見觀月橋以下全川に互り河川全部の維持を爲し現在に至つて居るのであります。

以上述べたる如く淀川の改修は、前後三回に互り施行せられたのであります。淀川筋に於ける最大洪水量は五千五百六十立方米（二十萬個）を快疏するの施設を以て本改修工事の目的とし工事が完成したのであります。然るに築堤土砂は其の質に於て他川の築堤土に比し水に對する耐性薄弱でありますため、出水毎に漏水致し法面の滑落或は崩壞を來しますので、既定の維持費を以て支辨することを得ず、或は工費の追加又は第二豫備金の支出を受けまして修理を致しましたのが、昭和七年以降四回其の工費總額九十三萬四千三百圓内に達するのであります。昭和十三年七月に於ける出水期に於ては、全川に互り堤裏に六十餘ヶ所の漏水個所を生じたるの狀況であります。左、右兩岸水防組合が必死の水防により辛うじ

て破堤を免れ得たと云ふ状態であります。斯る現象は今後堤防の安全上衷心に堪へざるのみならず、下流部に於ては近年大阪全域全體の地盤低下し、甚しきは一米五に達する個所もあり、従て左右兩岸堤に於ても共に沈下し、之が爲附屬物の維持困難を來し、満潮時には其の機能を發揮することが出来ない様になつて居ります。

今や大阪市及其の附近は、吾が國に於ける商工業の樞軸とも申すべく、軍事工業等に至つては缺くべからざる地位にあります等の重要性に鑑み、洪水量六千九百五十立方米（約二十五萬個）を快疏せしむる計畫と致しまして、御手許に差上げてあります通り本支川の既設堤防及工作物を補強し以て充分に安全を圖らんとするものであります。其の全體計畫は工費二千三百二十萬圓を要しますが、差當り念を要すと認むる大阪府北河内郡殿山町地先以下海に至る間の工事を施行致す計畫でありまして、此の工費千六百萬圓であります。

尙計畫の技術的説明に付ては引續き、辰馬技監より御

説明を申し上げます。

次で辰馬技監は、計畫に對する技術上の詳細なる説明を試みた。

木戸議長は之に對し質問なり意見なりがなきや又議事の進行上先づ利根川に付て承りたいと述べれば、有吉忠一議員は、本計畫案を見るに、嚮に昭和十年の本部會に於て決議したる本會の意見を、モット實際的に考慮せねばならぬのではないかとつく／＼思ふのである。即ち當時の記録を見れば判ることだが、「水害防備策の確立に關する件」中「恒久的方策を樹立するは喫緊の要務にして特に關係官廳の緊密なる聯絡」に俟たねばならぬことを痛切に感ずる。此の利根川は非常に複雑なる重要河川である。然るに嚮に第一、第二期及第三期工事として相當巨額の費用を要しながら、今亦増補工事を施行せざるべからざるは、更に將來に於て計畫を増補せねばならぬことになりはせぬか。成る程洪水の原因は雨である。雨は天地自然の現象であると云へば夫れ迄であるが、一面調査が不充分であつたのではないか、

關係官廳の協力が尤も必要ではないか。内務省の技術官は上流部に於ける山の状態を知らぬのではないか。山の保有する水量と云ふことに對して認識に缺くる所がないか。之等を彼れ是れ考慮するときは、内務省の技術官は、將來に於て更に増補の必要なしと考ふるか、又水害の害は恐るべきであるが、同時に又非常に效用及利益があるのである。

充分水の效用を發揮するに付ても考察したか。之に對し辰馬技監は、今回の計畫は、昭和十年及十三年の出水に鑑みて樹立したのであつて、其の内容は山地のことも充分考慮に入れ、嚮に本會議に於て決議せられた、砂防計畫と並行してやつたのである。又利用に付ても未だ確定的にはなつて居ないが考慮して居るのである。有吉忠一議員。利用方面に付ても考慮して居るとの事であるが、尙充分攻究して貰ひたい。三十年前に福井縣の九頭龍川は舟揖の便があり、風致を副へて居つたのであるが、之を今日ではすつかり涸渇して、大根、菜葉の類しか通らぬ、洪水は其の時に滯溜して置き、平素は矢張り昔の如く爲る様に計畫するこ

とが肝要である。治水と云へば、即ち洪水防禦のみを考へて、利用を考へぬことでは駄目である。又山林に付ても農林當局と協議した上で河川の治水計畫を樹つべきである。辰馬技監。各省とは技術官會議を開き連絡を取つて居る。

田中長茂議員は、今回の利根川増補工事と、水産關係に付いてお尋ねしたのであるが、即ち利根川及印幡沼には漁業關係者が數千人もあるのであるが、之等は本増補工事の爲に相當影響あるものと思考されるのであるが、其の生活の保證はどうなるか。之に對し狹間土木局長は、當局としても充分考慮して居る、將來實施に當つては具體的に計畫の上協議してやるのである。

田中長茂議員は、我々の方からも連絡を取るが、當局からも連絡を取つて進めて頂き度。

小濱八彌議員は、利根川沿岸は低濕地であつて從來も排水機を設備して居つたのであるが、此の計畫中に之等の考慮があるか。又今回の放水路は結構ではあるが、從來農林當局には印幡沼に付て干拓の計畫があるのである、従つて

本計畫に伴ひ干拓計畫を再検討せねばならぬことと思ふから、將來具體的計畫の上は協議して貰ひ度い。辰馬技監は本増補計畫に因つて必要を生じた排水機に付ては附帯工事として相當認めて居る。又干拓の關係に付ては何分の協議を爲す豫定である。

木戸議長は、利根川に付ては最早意見が無い様だから淀川に付て御意見を聴き度い。

山脇正陸議員代理鎌田大佐。利根川及淀川には、陸軍の渡河演習計畫に關係があるから、其の施行に付ては軍に協議して貰ひ度い。

之れで質疑を終へ、木戸議長は決定したる旨を告げて、河川部會を閉ぢた。

午後は一時四十分再開。木戸内相事故の爲館次官議長を代理す。灘尾幹事から議員の異動報告あり、引續き道路部會の議事に入り、左記議案を朗讀した。

## 諮問第二號

土木會議

國道二號路線山口縣下關市ヨリ福岡縣門司市ニ至ル關門隧道別紙計畫ニ依リ施行セントス仍テ其ノ會ノ意見ヲ諮  
フ

昭和十四年一月十六日

内務大臣侯爵 木戸幸一

次で換間土木局長から左の如き説明があつた。

本州と九州とを直接連絡致しまする所謂關門隧道の開鑿は、國防並産業交通上極めて緊要なる事業であります。が、本施設は我國に於きましては初めての大規模なる海底隧道でありますので、先づ以て十分なる調査研究を遂げた上工事を執行するを適當と認めまして、昭和十二、十三兩年度に亘り政府は總額五拾萬圓を支出し調査隧道を掘鑿して地質其の他の調査を實施致しますと共に、之が計畫に付きましては再度斯界の權威者より成る専門協議會を開催し、慎重審議の結果茲に本隧道開鑿の確信を



得るに至つた次第であります。

抑々本路線は國道二號線に該りまして東京市より鹿児島縣廳所在地に達する重要な幹線であります。下關市より門司市に至る關門海峡は現在船舶に依りまして、僅に貨客の運搬を爲す状態であります。然るに北九州地方工業地帯の發展と、關門兩重要港灣を始め附近諸都市の繁榮並中國筋内海沿岸の工業地帯化とは、近時頗る自動車交通の繁激を招來致しまして、本幹線國道を海上連絡に委ねることを許さぬ状態に立ち至りましたのみならず、航行船舶及横斷連絡船舶の輻輳は、潮流の急激なると共に世界有數の海難箇所を現出致しまして、關門兩港の機能を著しく障碍しつゝある現状に在るのであります。

右に述べました様な次第でありますから、關門間に海底隧道を新設致して本州、九州間の國道連絡を完ふすると共に、海上交通の危険を除却することは軍事上、産業交通上眞に緊要なる施設でありまして現下の時局から見

ましても急施を要するものと考へまして來年度豫算に之が經費を計上し、茲に諮問せられました様な實施計畫を樹立致した次第であります。

辰馬技監は技術上の見地から左の説明を試みた。

關門隧道計畫の内容に付きまして私から簡単に御説明申し上げます。

關門隧道の位置に付きましては早鞆瀬戸を横斷するもの外、下關市から小瀬戸を経て彦島に至り弟子待附近から小森江に渡るもの、彦島田の首附近から大里に渡るもの等が考へられたのでありますが、本計畫の様に早鞆瀬戸を横斷する方が隧道の延長最も短く、地質も大體岩盤と推定され、従て工事が比較的容易で工費も亦低廉であると認められたのみならず、關門兩市を直接に連絡し海峡を横斷する船舶交通を最も有効に吸收することが出来る等の理由で此の位置を選定された次第であります。

### (一) 線形

路線は交通の現状から鑑みまして本州側に於ては、長

府方面からと下關方面からとの二つの出入口を設けることに致しました。長府側からのものは下關市前田町の船舶信號所附近に於て現在國道から分岐し、直ちに隧道に入り百五十米の半徑を以て舊壇之浦町御裳川口附近に至り、それより海下面三十米乃至五十米の深さで海峡を横斷し、九州側門司崎附近を通り右折して門司市堀川町附近に於て地上に出で既改修道路に連絡するのであります。此の延長三千四百七十六米、中隧道部分は三千六米であります。下關側の分岐線は、下關市阿彌陀寺町八幡宮附近に於て現在國道から分岐し、丸尾通の終端附近から隧道に入り、御裳川口附近に於て右折して本路線と連絡するのであります。此分岐線は隧道内に於て長府側から來ます本路線との平面交叉を避ける爲、圖面に御示ししてある通り一部複線と爲つて居ります。此分岐線の延長は千八百六十四米で、内隧道部分は千八百八十四米であります。

以上本計畫路線の全延長は五千三百四十米であります

説

苑

て、内隧道四千百九十米、取付道路千五百五十米と云ふことに爲つて居ります。尙隧道各出入口に於ける往復車線の交叉も亦すべて高低交叉とするのであります。

### (二) 勾配

縦斷勾配は海底部分に付ては一般國道の規格を考慮して、大部分三十分の一即ち三・三%と致しましたが、本隧道は自動車交通を主とするものでありますから、出來るだけ隧道を短縮し、工費を節減する爲最急縦斷勾配を四%と致しました。横斷勾配はすべて〇・五%であります。

### (三) 隧道横斷形狀

次に隧道の横斷形狀に付て申上げます。

隧道の横斷形狀は圖面で御覽の通り、海底部分と取付隧道中往復交通式の部分と、同じく一方交通式の部分との三部分に依て異なるのであります。

(イ) 海底部隧道は水壓、土壓に對し最も有利な圓形とし、二段式、往復交通式として其の最小岩被は十二米

と爲つて居ります。

上段は自動車専用の車道でありまして、此の幅員は七・五米であります。下段は歩行者及自轉車の通路に充てるのでありますが、之は關門附近に於ける道路交通の實狀に徴し必要を認めためたのでありまして、海峽兩岸の陸上道路は昇降機に依るのであります。

(ロ) 取付隧道は自動車の専用に充てるのでありまして、往復交通式の部分は仰拱馬蹄型一段式で、幅員は七・五米であります。又一方交通式の部分は圓型一段式で其の幅員は五・五米であります。

(ハ) 車道上の有効高は全部四、五米と致しました。  
 (ニ) 路面はステール、コンクリート又はステール、モルタルと稱し、ステールの細粒をモルタルに混入した面を有する特殊塊を以て鋪裝するのであります。

(ホ) 覆土、外皮鐵飯卷コンクリート工とするのであります。

(四) 取付道路

取付道路は總延長千五百五十米で幅員は有效七・五米であります。

(五) 附帶設備

(イ) 換氣設備

延長の長い自動車隧道に付て最も考慮を要することは、隧道内の換氣であります。本隧道の換氣所は防空の點も考慮致しまして、下關側三ヶ所、門司側二ヶ所の五ヶ所とし、隧道内車道の上下に排氣室及送氣室を配置し、横方向流動式換氣裝置を施すことと致したのであります。

(ロ) 其他

排水設備、照明設備、其他必要な諸種の施設を爲すのであります。

以上施設計畫の概略を御説明申上げましたが、工事は調査隧道を水抜隧道を利用して大體素堀工法に依つて施工する心算であります。而して之に要する工費は總額で千七百萬圓であります。

尙一言申述べたい事は現在調査中の調査隧道でありま  
す（吾々は之を豆トンネルと呼んで居ります）高さ二・  
五米、幅二・二米の大きさでありまして、昭和十二年調査  
を開始致しまして下關側深さ六十七米、門司側深さ五十  
六米の各堅坑を下しまして、下關門司兩方向より海底に  
向つて坑導掘鑿を開始致しました。其の間兩側とも數度  
の海底斷層に遭遇致しましたが、セメント注入法により  
岩盤の龜裂を填充しつゝ又幾多の困難を克服致しまし  
た。本月十日迄の進捗状況は赤色で示してあります通り、  
下關側三百米、門司側五百四米まで掘進致しました。海  
底豆トンネル延長千八米の中餘す所僅に二百四米となり  
ました。海底の事で今後如何なる地層に遭遇するか豫斷  
を許しませんが、今の調子で順調に進捗するものとすれ  
ば本年三月末頃に本州と九州とを結ぶ劃期的な海底豆ト  
ンネルが貫通の豫定であります。又此の海底調査隧道か  
ら得ました岩石の標本は別に用意してありますので、後  
で御覽願ひ度いと存じます。

之に對し田中好議員は、本國道の關門直接連絡は、當初  
内務省の案は橋梁であつたかに承知して居る。然るに今回  
提案のものは隧道になつて居るのであるが、其の變更した  
る理由。又橋梁案と隧道案との工費の比較、附帶經費即ち  
將來隧道を維持管理するに要する費用は何程であるか、又  
其の支辨方法を承り度い。

辰馬技監は、關門間の國道連絡施設としては、隧道と共  
に橋梁に付ても篤と調査を爲したのであるが、各般の事情  
を綜合して隧道を採ることとした。又工費は、隧道は千七  
百萬圓で、橋梁は三千萬圓程度を要する見込である。

挾間土木局長は、本隧道の維持管理費は、經常的經費の  
みで年額約二十萬圓を要する見込である。之が支出方法に  
付ては、此の施設を國に於て直接管理したらどうかと云ふ  
様な問題にも關係を持つので、管理方法と共に尙研究中で  
ある。田中好議員は、隧道案に變更した理由を今少しく詳  
細に聞かして貰ひ度い。辰馬技監は、主として防空上の見  
地と、工費との關係で隧道案とした。

田中好議員は、關門海峡の浚渫と、本隧道の開鑿とは衝突することがないか。辰馬技監は、隧道は海底下相當の深度に於て開鑿するのであるから、浚渫との間に矛盾はない。

田中好議員は、本問題に關連して、道路政策に付て承り度い。即ち道路の改良は軍事上並に生産擴充上、將又資源開發上の基礎的要件として絶對的のものであることは申す迄もない。然るに我國道路の現状を見ると、大都市附近に於て僅に改良の跡があるのみで、他の地方に在りては概ね未改良に屬し、近代交通に適せない。即ち昭和十二年度迄に改良せられたるもの國道に在りては僅に二十二パーセント、府縣道に至つては僅に十二パーセントに過ぎない。又昭和八年本會議に於て決議せられたる八億圓二十箇年計畫に依れば、年額四千萬圓程度の支出を要するに拘らず、政府は僅に年額千萬圓乃至千三百萬圓程度を支出するに過ぎない状態で、斯くては、此の議決計畫の實行に六十箇年を要し、國運の進展に伴はざるのみならず、土木會議の決議は空文化することとなる。又我國の揮發油の大部分が自動

車の燃料に充當せらるゝ實狀に鑑み、且つ道路を鋪裝するときは其の二割以上の消費を節約し得るのみならず、自動車の償却及修繕費の低下其の他産業、交通、國民保健等各般に互り大なる利益ある點に於て、道路の鋪裝は最も緊急を要す。然るに我國道路鋪裝の現状、國道に在りては僅かに十五パーセント、府縣道に在りては三パーセントの鋪裝を施行せるに過ぎない。之が普及は自動車交通の急激なる發達と、燃料國策上最も努力を要するのみならず、斯くては豫て、揮發油稅創設の際に附帶決議の趣旨にも反する。之等に對し政府當局は如何なる決意と考慮を持つて居るか。

挾間土木局長。大變御尤な御質問である。第二次道路改良計畫の實行狀況は、昭和九年度乃至十三年度の五箇年間の年割額合計は一億八千三百餘萬圓であります。之に對する實行額は六千五百餘萬圓で、約三分一を支出されたに過ぎない状態である。之は政府財政の都合上已むを得なかつた所であるが、道路施設の現状と、最近に於ける自動車

交通發達の趨勢に鑑み眞に遺憾な所であつて、今後財政の都合を見計つて尙一層の計畫の遂行に努力したいと思つて居る。

此の時木戸内相出席し議長席に著く。

小野猛議員代理堤遞信技師は、本州と北九州工業地帯との電力供給の爲、本隧道を強電流の送電に利用さして貰ひたいと希望し、辰馬技師は、利用せしむる考を持つて居る。施行に當つて充分協議して貰ひ度いと述べた。

原清議員は、道路の改良と、舗裝政策を此の際確立することは最も緊急と考へて居る。殊に自動車を運行する道路が砂利道の爲に、外國に仰いで居るガソリンを二、三割も餘分に使つて居る。又自動車保有量の點からも、護謨の使用節約からも、充分本會の決議を尊重して行く様に政府に於ても一段と考慮を拂はれ度い。

渡邊右文議員は、關門隧道の計畫に於て防空の點から通風裝置を考慮したと云ふことであるが、空中に突出する部分は遮蔽し掩護する様特に注意して貰ひ度い。又作戦計畫

上十年は長期に失するを以て、可及的短期間に完成する様當局に於て努力して貰ひ度い。

有吉忠一議員は、本計畫は經濟上、國防上双手を擧げて賛成する。併し十箇年は永きに失するから、大臣の盡力にて速に完成する様希望する。

木戸内相。出来る丈盡力して御期待に副へ度い。

松田喜三郎議員は、本案には賛成である。併しながら此の配付せられた参考書を播くと、國道、府縣道を通じて一間半未滿のものが隨分ある。又舗裝も少しも普及して居ない。之れは道路の改良を顧みて居らぬ證差であつて、誠に遺憾である。軍事、産業經濟上嚮の土木會議の決議通りを一日も早く履行して貰ひ度い。

木戸内相。誠に同感である。就任早々で事情も深く聞いて居らぬが、出来る丈け御意見に副ふ様努力する。之れで質疑を終へ原案通り可決した。時に午後二時三十分。

第二日は港灣部會である。午前十時三十分開會。内務大臣が議會關係の要務で出席し兼ねるので、館内務次官指名に依り議長を代理する。高橋幹事は、港灣部會議員の異動を報告す。

次に議事に入り、左記諮問港第十六號を朗讀す。

諮問港第十六號

土木會議

新潟港修築計畫ヲ別紙ノ通決定セントス仍テ其ノ會議ノ審議ニ付ス

昭和十四年一月十七日

内務大臣候爵 木戸 幸一

次で挾間土木局長から、左の如き説明があつた。

新潟港は曩に港灣調査會の議を経て決定せられました修築計畫に基き、大正四年度より工費金二百三十四萬餘圓を以て修築工事を施行し大正十四年度に竣功致したのであります。爾來背後地産業の發達と共に港勢と共に港勢の進展著しく昭和十二年に於ては出入貨物百六十二萬

餘噸、此の價額八千七百八十六萬圓に達して居るのであります。殊に日滿兩國の關係は日に密接の度を加へ、本港は彼此兩國首都を結ぶ最捷路に當りまして、日滿連絡交通上益々重要性を加へつゝあるのであります。此の情勢に鑑み曩に閣議に於ては東北滿洲對裏日本交通革新並北鮮三港開發に關し決定する所がありました等茲に新に本港修築計畫を樹立する必要があると、今回諮問に相成つた次第であります。宜敷御審議を御願ひ致します。尙技術的の事項に付きまして技監から御説明申上げること致します。

次で辰馬技監から技術上の説明を爲した。

是に對し中川吉造議員は、本計畫には、浚渫工事は見込んであるが、由來新潟港は航路が狭く且つ淺く、泊地も淺い。今回の計畫はこれをどの程度にするつもりか。鈴木幹事。今度の計畫は港口の浚渫のみに止めたが、將來の計畫に付ては考慮して居る。

中川吉造議員。北滿、北鮮の各港は水深八米以上の岸壁

を有して居る。又同じ日本海の伏木港の岸壁は既に八米五である。斯様の状態の間に於て何故本計畫に水深を考へなかつたか。辰馬技監。御尤な質問であるが、豫算の關係上防波堤と些少の浚渫に止めたのであるが、將來成る可く早く御質問の解決を圖りたい。中川吉造議員。本港は從來から土砂が航路へ堆積して、幅、深共に不充分である。一日も速やかに中の方を浚渫せねばならぬ。

有吉忠一議員。北滿、北鮮と、日本海に於ける港灣との關係上、將來どの港灣を國策上重要な灣港と爲すつもりか、其の方針を承り度い。小山谷藏議員は、此の質問に關連して、日本海に於ける港灣の計畫が姑息であり、不充分であつて、僅かに二、三千噸級のものである。然るに先方は大規模の計畫である。之れでは、政府は此の時局に適應して居ると思ふが、補助港としてなら兎も角、苟も主要港灣と爲すならば、此の計畫では不満足である。

挾間土木局長は、今回の計畫は日滿交通の全部ではな

れを主要港とするかに付ては慎重に考慮して居るのであつて、引續き比較考慮して根本的な計畫を樹てる。今回ののは差當り新潟港其のものに付ての計畫である。

有吉忠一議員。研究することも多々あるであらうが、從來日本海は一般的に比較的開發が遅れて居るのであるが、世人は日本海を利用することを意氣込んで居るのであるから、之を導くことが必要である。夫れには、政府の方針を早く決定せぬと無用の費用を費すこととなる。滿鐵、鮮鐵、朝鮮總督府及滿洲國政府當局と、内地各關係廳との間に協議を遂げて速やかに決定して費ひ度い。

水野練太郎議員は、此の案には異議がないが、内務大臣に伺ひ度ひのは、日本海の港灣に付て政府はどう考へて居るか、齋藤内閣時代に交通審議會が出来、國務大臣と民間有力者七、八名の委員で、日本海の灣港に付諮問を受けたのであるが、當時はゆつくり研究しようと云ふことで答申には至らなかつたのであるが、其の後滿洲國及朝鮮との關係を見るに、日本海沿岸に力を注ぐべき状態となつて居る。



將來どういふ風に致さねばならぬか研究の程度を承り度いのであるが、大臣不在であるから今直ちに返事を貰ふとは云はぬが、更に一段の研究を遂げて貰ひ度い。

伊勢谷次郎議員代理鈴木遞信技師は、航路の擴張、浚渫は、過去の歴史に依ると、浚渫と埋没とを繰返して居る。

水深維持に付恒久的對策ありや。又西防波堤の變更は、風浪に依る船の操縦上困難が加はると思ふが如何。辰馬技監。

從來河川の整理未済の爲土砂の流出があつたのであるが、年々浚渫を爲し、河狀整理を爲しつゝあるのであるから、勢ひ流砂も少くなるものと豫想するのであるが、今暫らく日子を掛けて研究して見たい。河口の方向變更は今迄の程度よりは良くなるものと考へて居る。

館内務次官。大臣不在の爲各位の有益なる御意見を直接聽けなかつたことは遺憾であるが、御説の如く確かに今日では方針を樹立すべきであると思つて居る。併て内務省としては一應羅清、新潟と云ふことを考へて居るのであるが、尙皆様の御期待に副ふ様にする。

これで異議なく原案通り決定した。

次で諮問港第十七號を議題に供し、高橋幹事より左記議案を朗讀した。

諮問港第十七號

土木會 議

新田港修築計畫ヲ別紙ノ通決定セントス仍テ其ノ會議ノ審議ニ付ス

昭和十四年一月十七日

内務大臣候爵 木戸 幸一

次で挾間土木局長及辰馬技監より説明があり、引續き田島房太郎、三橋信三、中川吉造、水野練太郎の各議員から、港灣政策の根本的問題から、本港計畫の内容に付て詳細な質問があり、之に對し挾間土木局長、辰馬技監、鈴木幹事との間に反覆應答があつたが、之等の總ては、各種の見地より、外部への發表を禁じられて居るので、遺憾ながら省略することを了承して頂き度い。が議案は原案通り可決せられた。

此處で、最早や時間も切迫したので、議長は繼續するや否やに付圖りたり所、繼續との聲あり、引續き諮問港第十號を議題に供した。

諮問港第十八號

### 土木會議

名古屋港修築計畫中別紙ノ通變更セントス仍テ其ノ會議ノ審議ニ付ス

昭和十四年一月十七日

内務大臣侯爵 木戸 幸一

之に對し狹間土木局長から左の如き説明があつた。

名古屋港は大正十五年六月臨時港灣調査會に於きまして擴張計畫を樹立し、之に基きまして目下其の一部の工事を施行中であります。

本港は近時産業貿易の發展に伴ひまして港勢の進展洵に顯著なものがあり、昭和十二年に於きます出入貨物は七百九十一萬五千餘噸此の價額は五億九千二百五十四萬三千餘圓に達するの盛況でありまして、尙益々發展を豫

想せらるゝのであります。殊に靛近本港附近には幾多工場の建設せらるゝの趨勢にありまして適當な臨海工業地帯の要望が盛になつて來て居るのであります。之等の諸情勢に鑑みまして既定計畫の一部を改廢すると共に新に臨海工業地帯の計畫を樹てる必要がありますので、今回諮問に相成つた次第であります。宜敷御審議を御願ひ致します。尙技術の問題に關しましては技監から御説明申上げます。

次で辰馬技監より技術的の説明があつた。

中川吉造議員は、名古屋港の機能を十二分に發揮する爲には、飛行場の移轉を必要とするのであるが、之に對し縣及逓信省當局との間にどうゆう風に協定が進んで居るか。鈴木幹事。飛行場の移轉を必要とすることは充分認識して居るのであるが、何分各方面に種々の交渉があるので未だ確定して居らぬ。

伊勢谷次郎議員代理鈴木逓信技師は、航路を十米に浚渫する機會に、浮標の位置を變更するのが至當ではないか。

鈴木幹事。實施の場合には御意見の如く爲す豫定である。

松田喜三郎議員。提案の議案には異議はない。併しながら港灣の修築を今少し進捗して貰ひ度い。未改修の港灣が全國に随分ある。これでは前途甚だ心細い。又港灣指定の理由明かならざるものがある。入港船舶、噸數、價格に於て指定港灣よりも優れて居つて尙指定洩れになつて居るものがある。之等は相當整備して港灣行政の進展を期すると

共に、時局に鑑み港灣修築をもつと急いでやつて貰ひ度いとの希望的意見があつた。これで異議なく可決した。

以上で、河川、道路及港灣の三部會の議案は滞りなく可決確定したのであるが、之等土木行政中、道路政策の最も遅延せる現状に對する總論難は、獨り路政當局に對する鞭撻たるのみならず、時局下に於ける銃後の政府當局に對する大なる指針であることを痛切に感じられた。

## 交通事業調整委員會を一瞥

### 一 記 者

交通事業調整委員會も、諮問第一號「東京市及其ノ附近ニ於ケル陸上交通事業ノ調整ニ關スル具體的方策如何」ヲ諮問せられてから、之を特別委員會に附して審議を續けて居るのであるが、同委員會は其の第三回目を、客年十二月二十日午後二時三十分から鐵道省第一會議室に開會した。

當日は、事故の爲、池田、大藏、安部の三委員が缺席せられたが、其の他の特別委員全部を、傍聽として西郷、堀内、中川(吉)委員が出席した。

會我委員長は、調整區域に付其の目安を協議致度旨を述べ、且つ幹事をして參考迄に、目安としての大體の區域を